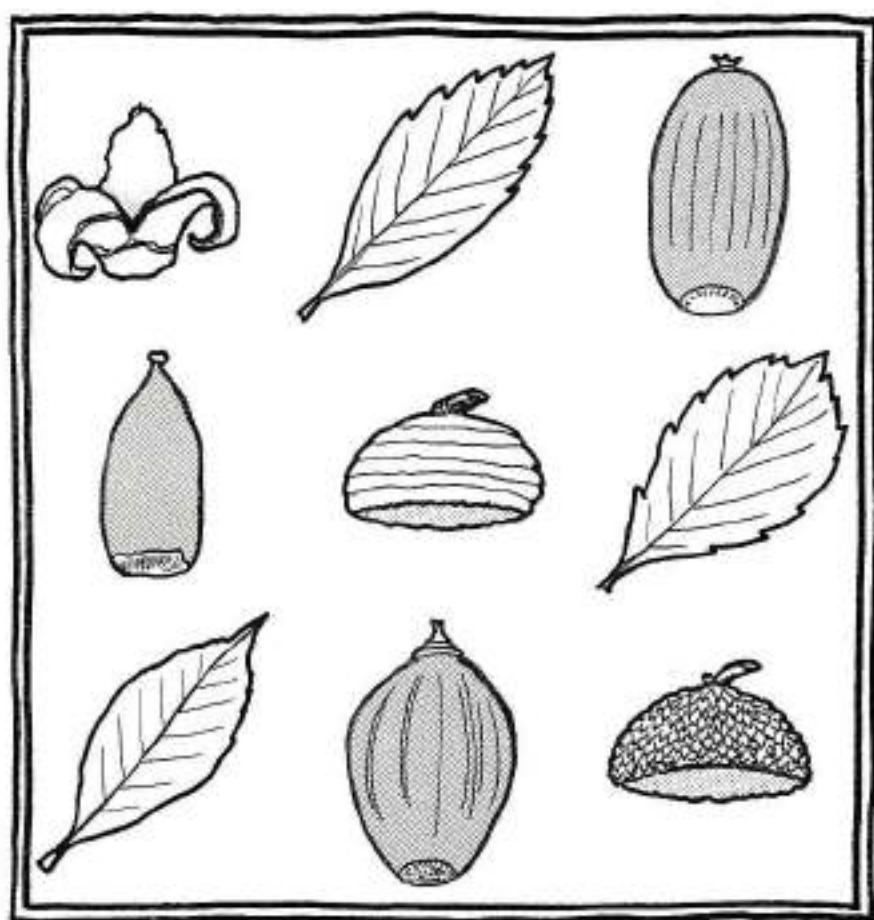


# Interpreter

# Workshop

vol.22



府民の森 パークレジャー 2002



# この夏の発見。～キャビアの巻～

5期 中村 孝子

今回のテーマは、条件があってなかなか書きにくかったのですが、期限ギリギリになって、ようやく書き出す決意ができました。(人間+セッパ→珍ない、なかなか動かないものですね。)

私はこの夏、初めて世界の三大珍味、「キャビア」を口にしました。というのも、ロシアに行った際、お土産に買って帰ったからです。日本で買うと100gあたり1万円以上するものが、ロシアでは2千円もあれば買えるのです！レンジーの皆士にも試食していたとのこと思っていたのですが、残念ながら賞味期限が切れてしまいました…。又手に入れた際には……。

これをきっかけに、キャビアについて少し調べてみましたので、御紹介します。クイズ形式になっていますので( )に当てはまる言葉を考えてみてください。

- ・キャビアは(①)の卵です。これはサケの仲間ではありません。
- ・キャビアといえば(②)海)が有名です。  
↑ 沿岸の国は、ロシア、イラン、カザフスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャン
- ・最近ではロシアの産源が盛んで、全世界的に生産量が減ってきている(③)です。  
↑ 5か国です
- ・「ベルーガ」「オセトラ」「セブルガ」の3種類が珍重されていますが、中でも(④)が粒が大きく、高級品とされています。  
↑ 英語やフィン語では、ラズル、セル、青、黄、赤と区別されています。
- ・ロシアでは、キャビアのことを(⑤)い「イクラ」、サケ類の卵を「赤いイクラ」とよんでいます。ちなみに「イクラ」はロシア語です。 Икра (イクラ)
- ・世界三大珍味とは、キャビア・(⑥)(⑦)のことです。

さていかがですか？これが私の、キャビアについての発見とあります。

## この夏の発見

第10期 タクサン

この夏 登山で行った山梨県の櫛形山（ご存知でない方が多いと思いますが 花の百名山になっている標高2,052mの山）でアツモリソウを見ることができました。

それまで図鑑でしか見たことが無かったのでとても感動しました。

図鑑の写真はわりと大きく撮られていましたが 実物は特徴のある形をした小さな可憐な花で葉の陰でひっそりと咲いていて、よく注意をしていないと見過ごしてしまいそうなものでした。この花は確か絶滅危惧種として“レッドデータブック”に記載されていたと記憶しています。こんな花が存続していけない環境が この日本でもどんどん広がっている現在、これ以上環境を悪化させないために

私たちは今 何ができるのかを考えていかなければならない！

これ以上 絶滅種を増やさないためにも！

アツモリソウに改めて教えられた環境問題でした。

中田

# 『 暑い夏にピッタリ！ 』

9期 高橋 利彰

ちょっとひやひやした活動報告です。

金剛山での自然観察ガイド。10時から15時まで星と自然のミュージアムに常駐。午前と午後、一回ずつ周辺を1時間ほどガイド。参加者を募るため、何人もの登山客に声をかけに廻ることもあります。(しかし突然、「ガイドします」と呼びかけられても、それぞれ目的があって登って来られているので、なかなか難しいのが現実です。)

毎回1人での活動です。

季節は初冬、いつも通り旬の驚き、発見を参加者と共に味わおうと事前に下見、シミュレーションを重ね、最終的に1時間コースを幾通りか決め、舞台を用意しました。本番の日、6時前、登山口に到着。道の両脇には白いものがありました。3時間を目安にちはや園地を目指して登って行きました。途中だんだんと不安になってきました。雪が降ってきたのです。園地に近づいて不安は現実となりました。一面真っ白。何のための下見、シミュレーションやったんや！頭の中も真っ白！暫し呆然…です。雪中観察会は予定外でしたから。10時まで残り1時間。何かないかと辺りを歩き始めました。これはもう植物だけではだめでした。急ぎ、動物も雪も、と考えられる限りの観察内容を取り入れることにしました。

終わってみれば、何とか多くの方に楽しんで頂けたようです。

17時過ぎ、登山口へと下山。辺りの草は饅頭のように雪で覆われていました。長い1日でした。でも勉強になりました。

今年の冬は？もう大丈夫です。パワーアップしました。その一つ、参加者が舞い降りる天からの贈り物を直接、受け取り、そこから様々に観察するアクティビティを予定しています。

今から、楽しみだ！



おわび この記事は前号に掲載すべく書いていただいたもので編集時の不手際で今号になってしまいました。おわびいたします。  
編集者

## 『 この夏の発見 』

9期 中島 弥香

この夏、というより、3月頃からずっと私はこれまでになく身近に「自然」を感じています。身近に…というより「身をもって…」と言った方が正しいかな！なんていうと大自然の中に引越してでもしたかと思われる？かもしれませんが、その「自然」とはスギ、ヒノキに始まり、カモガヤ、ブタクサ、オオアワガエリ、これからはヨモギなど…そろそろ例の花粉です。昨年までも2月3月はスギ、ヒノキの花粉症で鼻やくしゃみが出ていたけれど、今年は今までに例がないほど眼が反応して、3月中頃から眼が充血するし、まぶたは赤く腫れるし、何よりかゆくてかゆくて我慢ができず、ついついこすってしまっただけでまぶたがただれてしまったり、涙がいつもじわじわとにじみ出てきてティッシュを手放せなくて、もう仕事どころではありません。

眼医者に行くと、「近くに堤防はありませんか？」。そういえば自宅は大和川の堤防が近いし、春から職場が変わり、今までのマンションやビルなどコンクリートに囲まれた場所から、堤防がのぞめる田んぼに囲まれた場所に。もう条件はピッタリ！見事に身体が反応してしまったのです。カモガヤやブタクサなどは春から秋にかけてどこにでも生えてて、特に初夏のいい季節に「気持ちいいなあ」なんて毎日、車の窓全開で堤防や田んぼに囲まれた道路を走っていた私は、全く無防備に花粉を結膜にくっつけていたみたいです。



いつ治まるかいつ治まるかと、3種類の目薬を朝昼晩とさし、まぶたに塗り薬を塗りながら結局10月になってもまだかゆくて…。雑草（とよんでいるのは私達の勝手で、ちゃんとそれぞれ名前があるのですが）たちは本当に丈夫で、どんどん繁殖して、ほとんど1年中、子孫を残すために花粉を振りまいているのですね。

この夏は仕事が忙しく、ほとんど自然を楽しむことができず、逆に花粉に悩まされることになってしまったけれど、それもまた自然の姿で、空気を汚し、花粉を悪者にしてしまったのは結局私たち人間なのだから、文句を言う前に反省しなければならないのかもしれないですね。

もう夏は過ぎて秋が深まりつつありますが、田んぼに囲まれた職場からは日に日に色づいていく田んぼの風景を見るのもまたいいもので、10月に入ってから1枚また1枚と稲が刈り取られて田んぼが裸になっていっています。イネ科の植物は私の眼には大敵のようですが、この秋の実りがなくては、おいしい新米を食べることもできないのだと、自分に言い聞かせて、かゆい眼をこすらないように今日もまた目薬をさすことにします。

## 『うめ1号』

今日は 9月29日 にちようび。

レンジャー会報の原稿依頼を受けて、はや数週間。 ああもお明日が締め切り…でもこの夏「発見なんて、なあ～んもしちよらん!! 書くことなんて なあ～い!」なので、原稿のことはちょっと忘れて、『梅酒』でいい気分になっておりました。

ああっ! そおそこの『梅酒』…

テーマとはまったく関係ありませんが、我が家の『梅酒』について少しお話を…  
今飲んでいる自家製梅酒、今日が解禁日。漬けるのも飲むのも初挑戦!!

「ん～なかなかおいしゅうございますう。」

さて、この原材料になっている梅の実ですが、皆さんも良くご存知の『生駒』産でございます。

そう、『枚岡梅林産』。毎年、枚岡神社が行っている梅狩りの行事でいただいていたものです。

5/26(日)早朝。仕事に行くよりも早起きして、8時30頃だったか(よく覚えてない)枚岡神社に集合。着いた時にはもう人がいっぱい。採った梅の実の一部を神社に奉納すれば、あとはタダ… 無料で持って帰れるとあらば、おばちゃんたちが集まらないわあけえがないっ(桂小枝風)

でも、今年は収穫日が例年より早かったのが去年よりは参加者が少なかったそう… 参加の記帳をして入り口で待つこと十数分、係りの人の合図で梅林に入ります。「十分に数がありますので」と係りの人がハンドマイクで叫んでいますが、どうしても早足に…

梅林に着くと、それぞれ必死に梅の実を集めます。これが、思っていたよりおもしろいっ!!

木を揺るとすごい数がポロポロ落ちてくる。杖を使う人傘を逆さまにして受ける人。坂の下で誰かが落としたのが転がってくるのを待っている人。(←これがけっこうた

くさん取れるのですが、地面に落ちて痛んでいる場合が多い) 1時間ほどうろうろしてスーパーの袋 2 つに山盛り! 「ああ~もう採りつくした」って感じでした。早速家に持ち帰り、洗って乾かして2つのビンに漬け込みました。ビンに命名『うめ1号』『うめ2号』… 今日のペースだと来年までもちそうにありませんが… 来年は、みなさんも一緒に梅狩りに行きませんか??



# Let's ネイチャークラフト

2期生 金崎 ひろたか

『ネイチャークラフト』と、一口に言っても様々な定義があると思いますが、ここでは「公園や森でみつける、自然の素材等を使って工作をする」というように考えたいと思います。

- ・まずは簡単なもの（葉っぱのしおり・どんぐりのやじろべい・ペンダント・ブッシュピン・リースなど）から作りはじめませんか。そして年齢や技術、興味に応じて、もっと色々なものを作っていきましょう。
- ・まずは「作る楽しさ」を知るのが一番です。次に一歩進んで、作って終わりのモノ（少し経ったらポイッと捨ててしまうような）ではなく、作品として、実用品としてずっと家に置いておきたくなるようなものを作っていきませんか。すると、より楽しさが増すと思います。

## ネイチャークラフトの基本

### 1 素材探し

森の中で、どんなモノをみつけられるか。  
（葉っぱ・小枝・蔓・種や実・鳥の羽・間伐材など）

### 2 アイデア

いくら良い素材があっても、いい発想がないと素敵な作品は作れません。  
創意工夫が大切です！

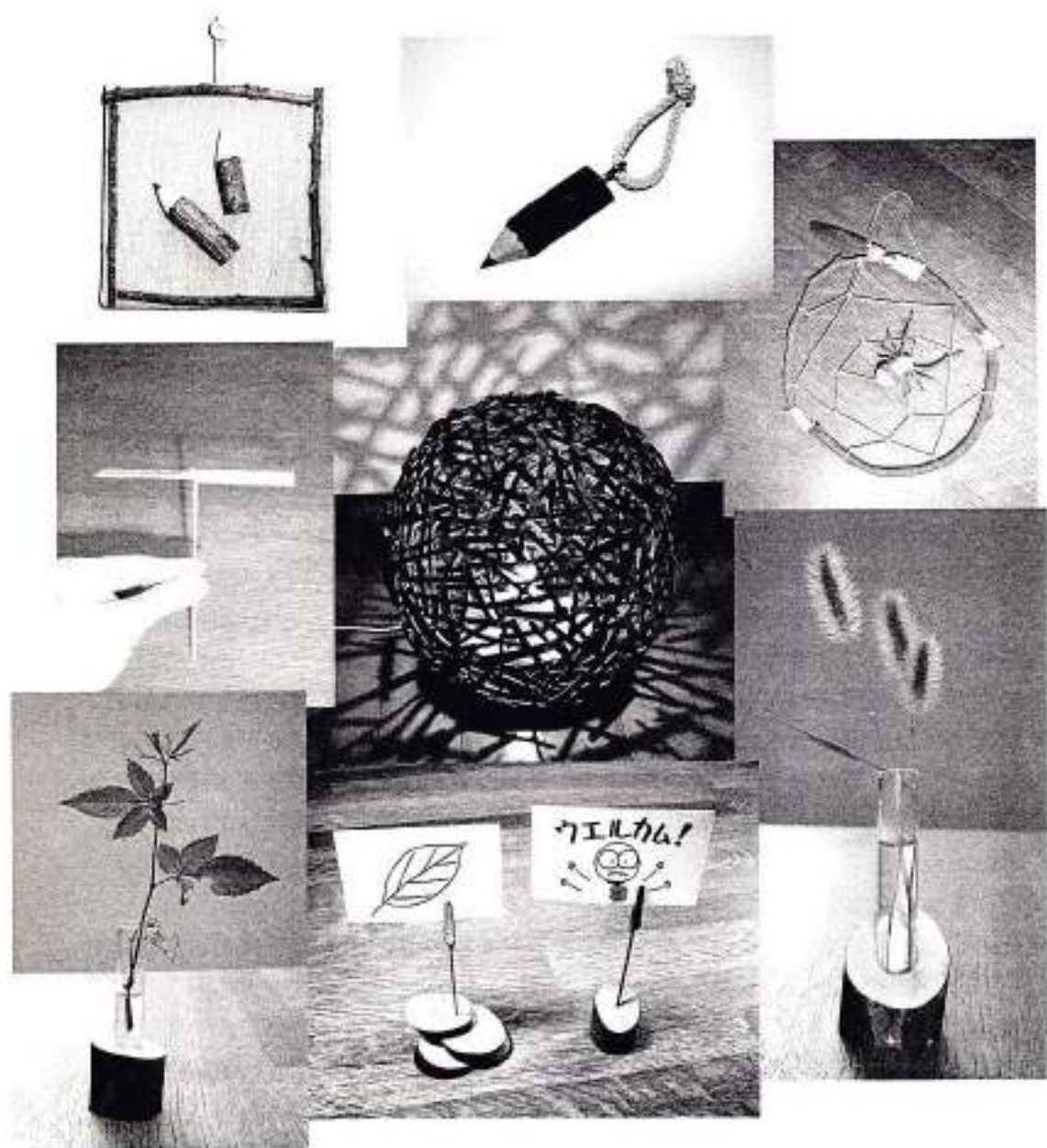
### 3 技術

特に難しいことは言いませんが、  
最低限として『ナイフで鉛筆は削れるように』は、なっておきましょう。

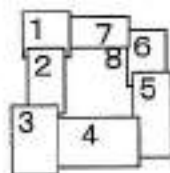
- ・ネイチャークラフトも材料が全て揃えられていたら、面白さは半減です。実際に森の中に入って、自分の目で素材探しをすることによって、『今までただ何も無かった森が宝の山に見えてくる』のです。
- ・自然の素材だけで作るのもよいのですが、そこに市販のものを何かプラスαすることにより発想が広がり、また色々面白いものが出来上ります。

さあ、まずは素材探しに森に行きましょう！

## ネイチャークラフト作品例



- ① 小枝を使った壁飾り
  - ② 昔ながらの、竹とんぼ
  - ③ 試験管と間伐材を組み合わせた一輪指し(その1)
  - ④ 間伐材・クリップ・ワイヤーを使った、カード立て
  - ⑤ 試験管と間伐材を組み合わせた一輪指し(その2)
  - ⑥ 藁にタコ糸を編んで、小枝で蜘蛛を作った壁飾り
  - ⑦ 小枝を使った、鉛筆型のキーホルダー
  - ⑧ 桜の小枝を組み合わせた、ランプシェード
- ⑧の桜の小枝は、近くの公園でせっせと拾ったものです。  
 (周りの人からは、たいへん不審そうな目で見られましたが…)  
 それ以外のものは、むろいけ園地で採った素材を用いて作ったものです。



## 《いま、ここにある現実》

10期 おくたこうじ

唐突ですが、森林と環境に関するクイズを6題！（次の質問に○×で答えよ。）

1. 森林の木を伐採することはすべて環境破壊につながる。
2. 森林生態系は酸素を供給する役割を果たしている。
3. 林道を造成することはイコール環境破壊である。
4. わが国に於いては明治期の文明開化が始まるまで、木材が大量に伐採されたり、大規模な自然破壊がなされたことはなかった。
5. わが国の森林全体の蓄積量は年々減少している。
6. 樹木を伐採すると、空気中に二酸化炭素が放出される。

どうですか？普通に考えれば、みんな当たり前だろうと思うことが多いのではないのでしょうか？詳しい説明は敢えて省略しますが、答えは明らかにすべて×です。

最近は一時期ほどではないにせよ、まだまだ「環境保護」という言葉には多くの美化された誤解がまかり通っているのが現状です。例えば熱帯雨林の問題。よくジャングルの木が1本残らず伐採され丸裸にされたTV映像が地球的環境破壊のシンボルとして映し出されることがあります。これも誤解を解くためだけの説明をいれますが、熱帯林において商品価値のあるいわゆるラワン材は世界で最も密度が濃いといわれているボルネオ島ですら1haあたりせいぜい4～5本あればいい方です。もちろん大きなラワンを伐出するためには林道造成が不可欠で、そのための自然破壊は行なわれますが、熱帯雨林皆伐ということは行なわれません。（そんなことをしたらコストに合わない！）そもそもラワンの生育する熱帯雨林といわゆる密林ジャングルとは全く別の生態系をもつもので、巨木に覆われた熱帯雨林は昼間も暗く太陽光が地面にまで届かないために下草やツル・低木がほとんどなく、むしろ歩きやすく林道造成にもアマゾンのジャングル生態系を破壊する時のような大ダメージを与えることはありません。林業技術の発達した今の時代に木を全部伐ってしまうことがあるとすれば、木材を伐り出す以外の目的で土地を利用される時だけです。（例えば某国のような安価なハンバーガーを大量に製造するため牧場開拓とか・・・）

私たちは「環境を大切にしよう！」と念仏のように唱えてさえいれば、まるで正義の味方にでもなったような気持ちになります。でもよく考えてみてください。それはどんな立場からその言葉を発していますか？まるでヒトゴトのごとくに自分だけは問題の外側の安全地帯にいて、そのくせもっともらしいことを言ったりしてはいませんか？経済危機と環境危機が同時に訪れ、未来への展望を誰も示すことができずに社会不安が蔓延する今の時代、私は「空想的」な環境論を語る前に、まずマスメディアのフィルターを通してでなく、自分の五感で自分の今ある姿や現実をきちんと認識し、そして私たちもヒトというひとつの生き物としてこの地球という奇跡の星で生きて（生かされて）いるんだということを踏まえ、そのうえで「空想」の世界に逃げこまずに「理想」を追求していかなくてはならないと強く思っています。これからの社会は指導者側に正しい答えがあって、学習者側はその答えに従ってさえいれば間違いないという枠組みがあった今までとは異なり、絶対的なモノサシなどどこにも見つからない時代になってきます。従来の考え方・価値観を転換すべきことがわかっているのに、自分の既得権益に呪縛されて、「（自分は変わらないけど）社会構造を改革しよう」といったようなどこかの国のおエライさんみたいな姿勢は何の意味も持たなくなり、何が正しいとか、間違っているとかがという視点で物事を見るのではなくて自分はこういう生き方を信じて生きていく、つまり「（社会構造は簡単には変わらないけど）自分は変わろう」という姿勢でないと生きていくのがとても辛い時代になってきます。私は今年40才になりましたが、私たちよりも下の世代の人たちは（私自身、最近痛感しているのですが）持てる人だけが反則行為を許されるアメリカ型の八百長競争社会にさらされたあげくに、老後は年金も期待できないし、病気になって

も健康保険制度が維持されているのかどうかも限らない。ボケても支えてくれる保障など何もない。働きたくとも職にはありつけず、仕方なくついた仕事は自分の意志とはかけ離れたものしかない。そんな社会不安は考えられないような犯罪も多発させ、安全保障すら自分自身の力でやらなければならない、それどころかいつ本物の戦争や紛争に巻き込まれるかわからない。かつてはただと云われていた世界で最も貴重な資源であるはずの水の安全すら保障されない。食糧はいうまでもなく…。独自のスタンスを構築しつつあるヨーロッパ諸国と異なりアメリカンスタンダードに追従し利用されているだけの日本で未来を信じろと言われても何の説得力もない。保身に満たされて怒ることを忘れてしまった人たちにはこの話を遠い世界の幻想くらいにしか捉えることができない。それが現実です。

今まではよく「未来の地球のために」とか「次につづく世代のために」とかというスタンスで（それは私にはかなり無責任なニュアンスを含んでいるように思えるのですが）環境問題が語られてきました。でもこれからは（特に既得権益など何もない若い人たちには）「いま、ここにあるもの」を大切にすることが環境問題のキーワードになるように思えてなりません。未来とか次世代とかそんなわかりにくい言葉よりも、いかに自分が主体になって自分のまわりの環境を変えていけるか？そしてもっと大切なのはひとつのことをオタク的に突出させるのではなく、自然環境・人間環境・社会環境をトータルバランスでとらえていくことかなと思っています。里山の風景・美しい海・奥深き豊かな森・まだまだ私たちの住む日本にも美しい自然はいっぱい残っています。[種の減少や滅亡が危惧される今でも日本の生物種の数は温帯国のなかでは圧倒的に世界一だそうです。]それに少し田舎に行けば、世知辛い世の中なんてどこ吹く風で全く異なる価値観をもって悠々と暮らす人たちがたくさんいます。でも反面、無理しなくとも“普通”の文明や“普通”の便利さには、自然体でカッコつけずに生活していればどんな田舎にいてもありつくことができます。私の友人に朝に北で流氷の海に飛び乗り、同じ日の夕方に南で亜熱帯の珊瑚礁の海に潜ってダイビングを楽しんできたという奴がいますが、そんなことができる国は広い世界見廻してもないでしょう。人と自然が少しづつ巧みに文明を取り入れつつも共存してきたわが国が、今、人も自然も危機にあると感じるのは私だけでしょうか？

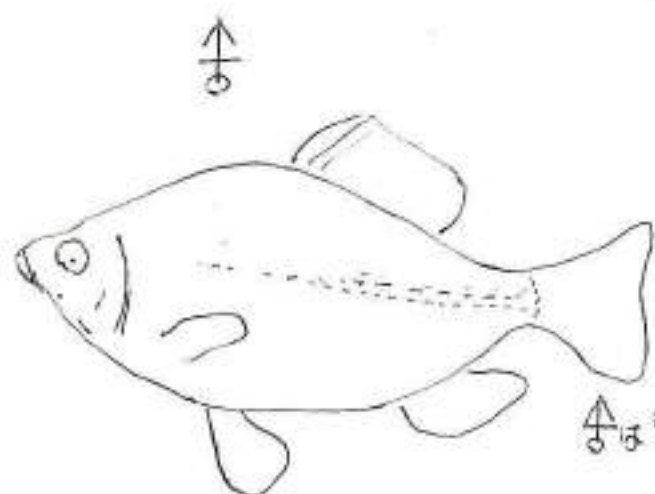
「未来のために。」ではなく「いま、ここにあるもの。いま、ここにあること。」—環境問題だけでなく、生き方や自分自身の内部にあるものすべてに云えることなのですが、私は玉石混淆するその現実をすべて受け入れていく勇気を私は持ちたい。そのためにマスコミが作りあげた偶像をそのまま受容するのではなく、自分の目で楽しいことも悲惨なことも含めて現実を直視し、自分の目で叫びや喜びを聴き、自分の肌で痛さや気持ち良さを感じ、そして自分の心で率直に感じた思いや感情を大切にしたい。その理想の先にはきっと変えられる未来が開けていることを信じて。

(2002-9-27)

長くなりましたが、私が「ニッポンバラタナゴ」に興味を持ち、今どんな活動をしているのか  
大体お解りいただけたかと思えます。いよいよ本題の「ニッポンバラタナゴ」がどんな面白い生  
態をしているのかですが、紙面の都合上、今回はここまでお許しいただいて、イラストで紹介さ  
せていただきます。 つづく

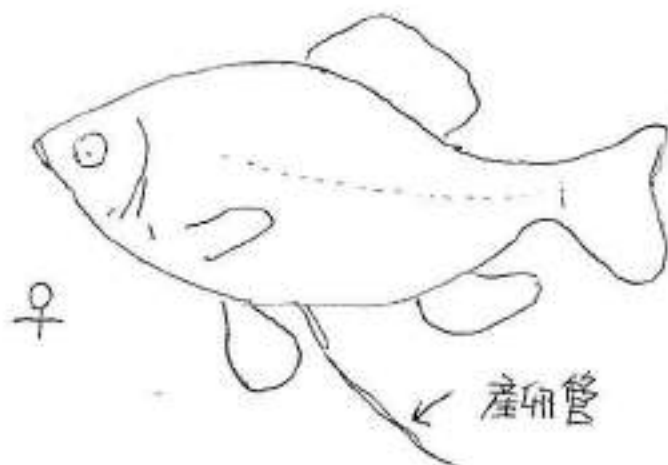
### 「ニッポンバラタナゴ」

・ 地方名 : ボテ、キンタイなど



♂は繁殖期に紫色の婚姻色が表れる。

4cm位



♀

← 産卵管

# 2002 Jr. camp 夏はキャンプだ! みんなであそぼう!!

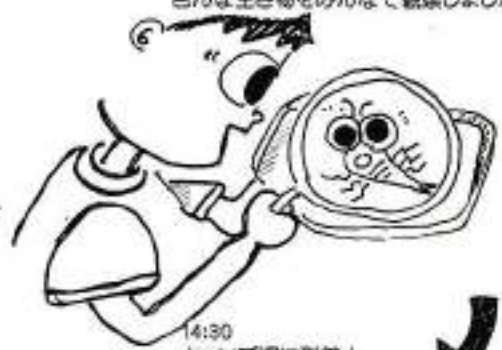
報告レポート  
4期生:松原万岐

8月24日(土)~25日(日)  
参加者:7~10歳の子供達 19名  
参加スタッフ:レンジャー11名・公社2名

9:50出発  
まずは“のんびり”  
アプローチハイク!



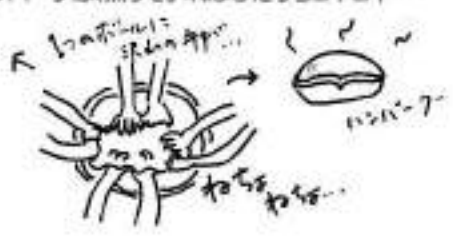
途中  
好きな所で  
お弁当を食べて...



アクティビティ①  
何がいるかな?水生昆虫観察!!  
案内所横の小川にちぐりこんで、  
色んな生き物をみんなで観察しました。

16:00  
アクティビティ②  
みんなで楽しい夕食作り!!  
今回は、ドライカレーにチーズinハンバーグ、  
ピタパンにご飯にデザートと盛りだくさん  
でした! ネリモン好きな子供達、ピタパンと  
ハンバーグは、黙っていればひたすらコネコネ...

ほんと  
おいしいのよ!  
好きなの  
でした!



14:30  
キャンプ場に到着!  
ちょっと休憩してから  
近こで観察記録をチェック

アクティビティ③  
近こで観察箱に好きなように  
観察した生物を書いてまとめてもらい、  
翌日の発表会の準備を!



20:30  
アクティビティ④  
たっぷり食べた後は、お待ちかねの  
ナイトハイクゲーム!!  
しかし、突然の大雨で中断!...  
おまけにポッキーの箱が落雷?

内容:肝だめしのコースを作り、カードを各地点で  
集めながら進み、キーワードを推理してゴール。



21:30  
各自テントで自由時間を過ごし  
ながら雨の様子を伺っていましたが、  
止みそつに無かったのでそのまま就寝  
とあいなりました☆ おやすみなさ~い

ナイトゲームの中止には、  
子供達もスタッフもがっかりでした。

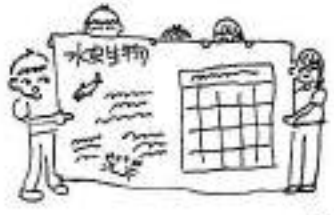


ところが子供達の発想が、  
パワーが有り余って?  
興奮状態も覚めやらず、  
なかなか寝りに入ってくれなくて、  
1時過ぎようやく静かになり始めた  
のでした...



2日目  
6:30 起床  
濃霧にもよってびしょ濡れでしたが、  
顔を洗っているうちに晴れてくれました。

7:00から軽い体操をして、目を覚ました後は、  
朝食をしっかりと食べて、アクティビティ⑤の続きを。  
そして、いよいよ発表会!!  
各班、それぞれに工夫してまとめてくれて、  
何よりも一人一人が自分達の描いたものを  
説明してくれる姿が、何とともかわいかったです。




10:30  
アクティビティ⑤  
最後にお楽しみの工作!!  
モックン作りに、みんなは夢中になって  
それぞれの色んな表情のかわいいうまくんを  
沢山作って、誇らしげに見せてくれました。  
お昼を食べて、14:20には下山を。  
みんな無事に笑顔でバイバイと、それぞれの  
お家へ帰っていきました... END



最後の予選と違って...  
原因:今回は、たまたま参加者の子供達に  
顔見知り(ご近所さんや、同じ小学校)が  
多かったようで、それもあってでしょう、  
はしゃいでしまって、人の話を聞かない、  
口は閉じない、動きが止まらないのS拍子  
で、とにかく落ち着きがなく、スタッフは  
みんなテンアツアツでヘトヘトでした...  
がしかし、最後はみんな仲良くなって、  
一番言う事を聞かなかったヤンチャ坊主が  
“来年はもっとパワーアップしてくるから!”  
と、車の中から叫んで帰っていききました。  
楽しんでもらえたのはうれしかったんだけど...  
この時の、スタッフの微妙な表情もおもしろ  
かったかな?O!  
スタッフの皆さん、本当にご苦労様でした。



自己紹介 (追加分)

名前	中田隆次 10期	
ニックネーム	タクサン	似顔絵
趣味	山歩き 植物さがし	
特技	さまさまを出会を 大切にしたい!	
自己PR・その他何でも...		
楽しい事存り何でも入ります、 イヤな事を楽しくやって 楽しい事にかおって行く。 そんな事が喜びです。		

# 編集後記

今回の「IPWS」はいかがだったでしょうか。

コピーとホキキスどめの作業が3人では、ちとたいへんでした。

これからは、もと仰くのレンジャーで編集長の 中島 弥香(9期)と  
と盛り上げていこうよ!

特集記事の同一テーマで文章をかくのは、

レンジャーそれぞれの個性が色濃く出ていて、とても楽しく  
読ませてくれました。

では、vol.23で... by さんちん

## ♥ レンジャーのみなさんへ ♥

1期~10期まで、なかなか全ての人とイベントで顔を合わせることは  
むずかしいです。1年間に何人のレンジャーと話しをしましたか?  
ということ、せめて、この紙面で、コミニケーションを深めることができたら...  
みなさん、どんどん原稿を寄せて下さいね。あまり、テーマにこだわらなく  
ても、書いていってあげればいいのでは... と思っています。  
次号もよろしく!

9期 中島 弥香

## 番外編 「この夏の発見！」

- ・ 昨年夏のちはかCAMPでの川タイムでさあ、いたミヤマササキが  
今年は下見の時に一度鳴き声を聞かせてくれたせいで、静かだった。  
という発見をまなびた発見。
- ・ ちはかの夏にはおなじみのアサギマダラ。夏の終わりの  
あついな園地の蟹ヶ坂コースも登り始めたあたり、アサギの花に  
ゆらゆらとち頭ほどぶら下がっていた。あついな見たのも初めて。  
蝶も口頭と数えると知ったのも発見。

編集作業、楽しいよー 早くみんなの書き物読みたいよ〜。

2期 にしあきこ ♪

## 🍄 表紙解説 🍄 「どんぐり いしり」

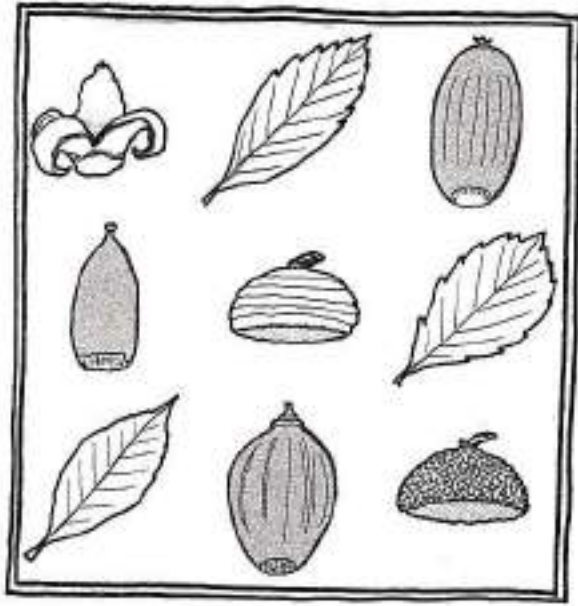
表紙の 堅果(ドンクリ)・殻斗(ほし)・葉も 夕方に組み合わせて  
左から順に スダジイ・アラクシ・コナラ<sup>のてい</sup> です。

ドンクリもほしも葉っぱも種類によつていしりの特徴があります。

ただ、同じ種類でも木によつてドンクリの形がちがったりもします。

長かたり、太ちがたり... おもしろいものですね。





2002.10.21 発行